

2. 火山の概況 (平成14年12月26日 ~ 平成15年1月1日)

雌阿寒岳では微動があった。箱根山では一時的に地震がやや多くなった。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では孤立型微動が多い状態であった。桜島、諏訪之瀬島では噴火があった。



図1 記事を記載した火山

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注2 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ等を示す。

雌阿寒岳 [微動・地震]

1月1日02時07分に規模の小さい火山性微動が発生した(継続時間約1分、2002年3月29日以来)。この微動に関して噴煙活動の変化はなかったが、微動の発生前後から体に感じない微小な地震がやや増加している。

箱根山 [地震]

12月30日12時08分に箱根山・駒ヶ岳の南西約2kmを震源とするM(マグニチュード)3.1の地震が発生し、箱根町湯本で震度2を観測した他、神奈川県、静岡県の一部で震度1を観測した。その後、体に感じない微小な余震が1月2日までに19回発生した。

三宅島 [地震・噴煙]

1月1日20時台~21時台に振幅の小さいやや低周波地震が1時間当たり8~9回と一時的に増加したが、それ以外は期間中の地震及び微動の活動は低調であった。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上800m(12月27日)であった(前期間300m)。

GPS観測では、三宅島の収縮を示す地殻変動は鈍化し、ほとんど停滞している。

阿蘇山 [微動]

孤立型微動が、1日当たり141~320回発生し、期間中の合計は1,457回(前期間2,062回)と、引き続き多い状態が継続した(図2)。

地震の回数は少ない状態が続き、1日当たり2~9回で、合計は34回であった(前期間40回)。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上400m(12月27日)であった(前期間400m)。

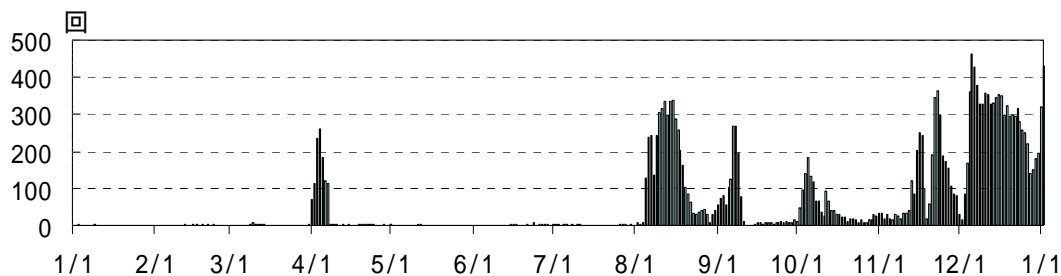


図2 阿蘇山 孤立型微動日別回数
(2002年1月1日~2003年1月1日)

桜島 [爆発・噴煙]

12月27日に爆発的噴火が1回発生した(前期間なし)。

噴煙高度の最高は火口縁上800m(12月27日)であった(前期間800m)。

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では降灰はなかった(前期間の降灰日数は1日、降灰量はごく微量)。

諏訪之瀬島 [爆発・微動]

12月26日に爆発的噴火が2回発生した(前期間8回)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落(御岳の南南西約4km)では、12月25日夜から26日朝にかけて時々爆発音が確認された。

12月18日00時05分から発生している連続微動は、1月1日24時現在継続中である*。

*12月24日00時~27日11時は地震観測データ欠測により不明。

表 火山情報発表状況

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第720号 (1日2回発表)	26日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第723号 (1日1回発表)	27日 16:30	
	火山観測情報第727号	31日 16:30	
	火山観測情報第1号	1日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第13号	27日 14:10	孤立型微動の多い状態が継続

「火山の概況」に関する解説

「火山の概況」では、噴火や定常状態から変化があった火山及び火山活動に関連する表面現象があった火山について、陸上火山については、各気象官署が収集した情報により、海底火山については、海上保安庁及び海上自衛隊の観測報告に基づき、その概況を記述する。また、時刻は日本標準時を使用する。

「火山の概況」で用いる用語は次のとおりである。

- 噴火**： 火口から火山灰等の固形物や溶岩を火口付近の外へ放出する現象。但し、噴火活動が活発な桜島では、火山灰を含む噴煙の高さが火口縁上概ね 1,000m 以上となった場合に噴火としている。
- 爆発**： 噴火の一形式で爆発的噴火の略。地下の高温、高圧源での内圧が増大して起こり、音響とともにガス、水蒸気、岩石等を放出し、空振を伴う現象。時に火口や山体を破壊することもある。
- 火山性地震**： 火山体または火山付近を震源とする地震。「火山の概況」本文中の地震とは、主に火山性地震をさす。
- 火山性微動**： マグマや熱水の移動等に関連して発生する地面の連続した震動。
- 日回数**： 現象の 1 日の回数。例：火山性地震の日回数は 20 回
- 鳴動**： 火口またはその付近に音源を持つ連続的な音響で、特に火山活動に関連して起こるもの。時には震動を伴うものもある。
- 空振**： 噴火などにより火口から物質が放出される際に発生した衝撃波などが、空気中を伝わり観測される音波。爆発的な噴火では大きな空振が観測される。人間が聞こえない低周波の音波まで観測できる「空振計」と呼ばれる測器で観測する。
- 噴石**： 噴火の際に噴出される溶岩または火山体を構成する岩石の破片。
- 降灰**： 火山灰、火山砂、火山礫が降下する現象。
- 火山雷**： 火山噴火の際、噴煙中またはその周辺で発生する雷。
- 火映**： 火口内の火山ガスが燃焼した場合や、赤熱溶岩が噴出した場合に、これらが噴煙や雲に映って明るく見える現象。高感度カメラにより初めて捉えられる程度の弱い現象については、「微弱な火映現象」と表現して、従来の肉眼で捉えられる火映と区別している。
- 火炎**： 火口から出る可燃性ガスが燃える現象。
- 火山昇華物**： 火山の噴気孔の周囲に、噴気中の成分が固化し付着したもの。黄色や白色のものなどがある。
- 火柱**： 噴火の際、火山噴出物が赤熱状態で噴出されることにより、特に夜間、火口上に火の柱が立ったように見える現象。
- 火砕流**： 高温の岩片と気体が、主に重力によって駆動され、一団となって高速に地表を流下する現象。
- 溶岩ドーム**： 粘性の高い溶岩が噴出したため、遠くに流れることができずドーム状の丘となったもの。